埋もれた滝

井沢渓谷

地域で発掘

幻の滝 不動の滝

▲井沢渓谷の元屋敷二段滝と案内役の市観光協会上矢作支部副支部長の横光さん。「この渓谷の岩や木々が作る自然美の素晴らしさを、多くの方に見ていただきたい」と語る

豊かな緑と清らかな水に恵まれた上矢作町で、不動の滝と井沢渓谷の滝群が、新たな観光資源として発掘されました。

市観光協会上矢作支部は、昨年10月に達原地区、ことし2月に井沢地区で、国の緊急雇用創出事業を活用して渓流周囲の樹木を伐採。達原地区では落差約40メートルの幻の滝「不動の滝」、井沢地区では埋もれていた11カ所の見所のある滝群「井沢渓谷」が、それぞれ姿を現しました。今回は、作業を行ったメンバーの1人、副支部長の横光八洲男さん（64歳）に、滝を案内していただきました。

□問い合わせ　市観光協会上矢作支部（上矢作振興事務所）☎47―2111

不動の滝

この滝があるのは、上矢作振興事務所から国道418号を長野県平谷村方面に約10分ほどの、福寿草自生地で有名な達原地区。滝は、狭く曲がっている国道から見ることができますが、通行する車などには注意が必要です。

横光さんらは、地元の一部の方しか存在を知らなかったこの滝を、樹木を伐採して見ることができるように整備。滝の最上部に不動明王のほこらがあるところから、昔から地域では「不動の滝」と呼ばれていたとのことでした。

対岸の国道418号から望む不動の滝▶

井沢渓谷の滝

国道257号から県道33号を経由して、明智町方面へ2キロほどの所にある井沢渓谷。その小さな岩の多い沢に、長い歴史を引き継いだ大小11もの滝やふちがあります。

案内の横光さんは「滝には駐車場を利用して、片道1・4キロのコースを歩くのがお勧めです。ただ、滝の付近には危険な場所もあるので、十分注意して楽しんでほしい」と話していました。

▲滝めぐりの入り口の駐車場に設置された案内看板は井沢地区の梅本さんが描いたもの

滝の名前や由来は、下流から順番に次のとおりです。

①雨乞い淵の滝

昔、長い日照りに困った土地の人たちが、交代で雨ごいに行き、その願いがかなえられたというふちにある滝。

②釜淵の滝

古くから、洪水や台風で川が荒れても、常に「釜淵」から大きな岩が流れを2つに分けて、流れ落ちている滝。

③釜淵

ある日、雨乞いに行った村人が、ふちから出て来た竜に引き込まれてしまった。そこで大きな古い釜を沈めたら、その後、竜は出なくなったと伝えられているふち。

④そうめん滝

井沢川とそうめん掛り洞の合流点にある滝。また、そうめん（租ヲ免ズル）という屋号の近くにあることから、そうめん滝と呼ばれています。

⑤水神淵の滝

その昔、村人たちが井沢川の水が絶えないようにと、水神様を祭ったところから、いわれるようになりました。

⑥元屋敷の滝

滝のすぐ上に、古くからあった元の屋敷にちなんで、こう呼ばれるようになったといわれています。大きな岩をはうように流れ落ちるこの滝は、井沢渓谷の中でも随一。

⑦元屋敷二段滝

元屋敷の滝の上から流れ落ちる滝で、二段の滝になっています。井沢渓谷の奇岩群のなせる自然美の滝。

⑧箱淵の滝

両岸が箱のように切り立っている岩場でできているふちから流れ落ちている滝。

⑨おぶすなの滝

左岸にある「おぶすな山」にちなんで名付けられた滝。

⑩ゆずりはの滝

常緑高木のユズリハが群生していて、いつのころからか、この名で呼ばれるようになりました。

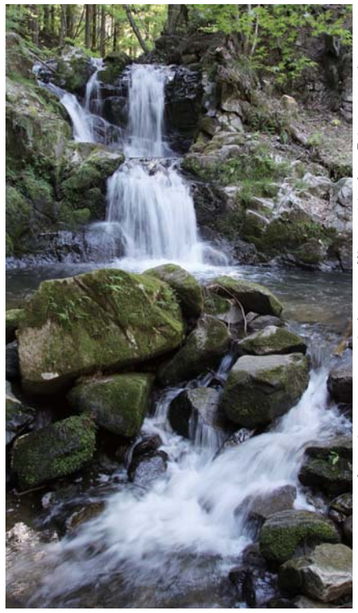
⑪三の背の滝

その昔、背板に背負った薪や草を、ここから3回休んで井沢まで運んだことから、この名が付きました。

▶「雨乞い淵の滝」を楽しむ子ども

▶2つに分かれた滝の「釜淵の滝」

▶渓谷随一の「元屋敷の滝」



▶「おぶすなの滝」の語源は由緒ある産土（うぶすな）からという言い伝えもある